

企業と博士人材のPRサイト

『企業と博士人材の交流会』

Exchange meeting between companies and doctoral personnel

[企業と博士人材のPRサイト]

－博士人材の採用をお考えの企業の皆様へ－

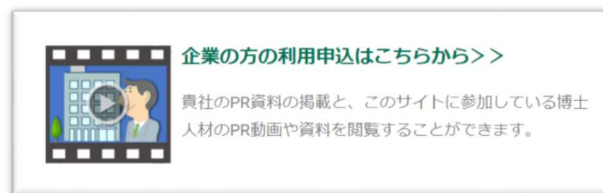
2020年8月～9月にWebで開催した「第10回企業と博士人材の交流会」で使用した「企業と博士人材のPRサイト」を、2020年10月より名古屋大学所属の博士人材専用のサイトとして運用します。

当サイトは、参加している企業と博士人材が、自身をPRする動画や資料をアップロードし、相互に閲覧するサイトです。

現在（2020.10.1）は今年度の企業と博士人材の交流会にご参加いただいた企業様32社が企業のPR動画や企業概要、採用情報等の資料を、本学の博士人材61名が、自分の研究や自分自身をPRする動画や資料を掲載しています。

名称	『企業と博士人材のPRサイト』
形式	オンライン
利用期間	利用申込時～2021年5月
利用料	7万円（税込）
対象	博士人材の採用をご検討の企業の皆様

申込方法 「企業と博士人材のPRサイト」利用申込ページ より申してください
>>> <https://dec.nagoya-u.ac.jp/career/prsite/>



名古屋大学キャリア教育室より
メールにて、サイトご利用までの
手続きをご連絡いたします。

当サイトに参加している博士人材について

理系・文系、日本人・留学生、博士後期1年生～3年生とポスドクや特任助教、名古屋大学所属の様々な分野属性の博士人材が参加しています。企業への就職を強く希望している学生はもちろんですが、キャリアについては不明確な学生や、アカデミックな研究者を目指している学生まで、さまざまです。アカデミックな研究を志す学生においても、企業様との交流で、産業界への魅力を高める学生、自身の研究の価値を見直す学生、共同研究などを検討していく学生など、それぞれの目的に応じて、ここでのご縁を有効に活用しております。

当サイトは企業様と多様な研究分野をリードする博士人材との人材交流の場であるだけでなく、博士人材の研究発表の場でもあります。採用ご担当者様はもとより開発・研究部門の皆様にもご参加いただき、博士人材の人となりだけでなく研究内容にも関心をお寄せくださいますと幸いです。サイト内で連絡先を公開している博士人材については、企業様から直接ご連絡を取っていただいても構いません。連絡先の分からない博士人材についても、キャリア教育室を介してご連絡を取っていただくこともできます。企業様と博士人材がつながる場として、有効にご活用ください。

お問合せ先

名古屋大学 博士課程教育推進機構 キャリア教育室
(キャリアサポートセンター 博士人材キャリア育成部門)

E-mail : hakase-career@adm.nagoya-u.ac.jp

URL : <https://dec.nagoya-u.ac.jp/career/>

企業様のPRサイトについて

掲載できる内容は以下のものです。**プロフィール画像とPR動画もしくは資料最低1点**の掲載は必須ですが、あとは任意でご利用ください。

・プロフィール画像 1点 (必須)

プロフィール画像は、学生が「企業一覧」として閲覧するサイトに（右のイメージ画像参照）表示される画像です。貴社のイメージを表現する画像や、企業ロゴ等をご用意ください。

・PR動画 (mp4) 1本

・PR資料 (pdf/docx/pptx/xlsx) 2点

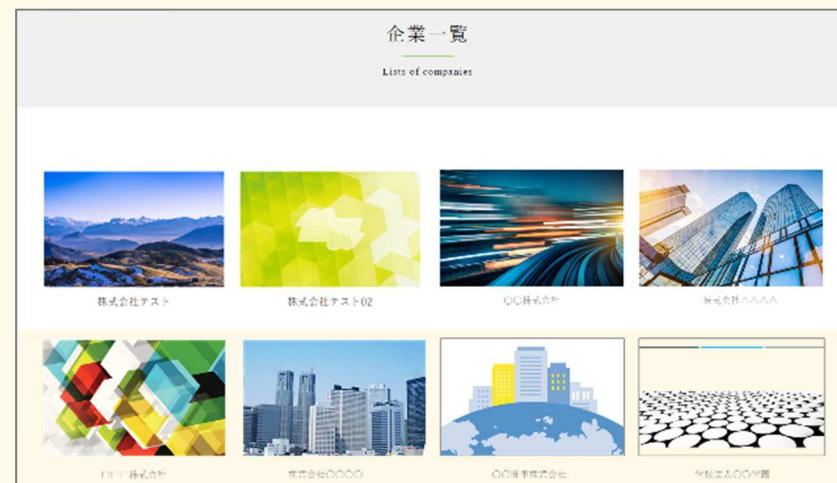
PR動画・資料ともに、当サイトにアップロードできる1データのサイズは**30MB**までです。

動画、資料、YouTubeのいずれか1点の掲載は必須です。

・YouTube埋め込み 1本

・フリー記述欄 (テキストや画像の挿入、URLリンクの設定等)

更に多くの情報を載せたい場合は、フリー記述欄を有効にご活用ください。テキストの他に、画像の挿入、URLリンクの挿入等ができます。



当サイトに参加している博士人材が閲覧するページに、上のイメージ画像のような「企業一覧」が公開されます。博士人材は、企業様のプロフィール画像をクリックして、各企業のPRサイトを閲覧します。

博士人材のPRサイトの閲覧について

サイトを利用いただく企業様は、右のイメージ図のような「学生一覧」から、参加している博士人材個人のPRサイトを閲覧することができます。

「企業と博士人材の交流会」にご参加いただいた企業様のアンケートでは、「ユニークな動画が多くあり、個性を知ることができた」（82%がyesと回答）と、ご好評をいただいております。具体的に、以下のようなお声もいただきました。

研究内容中心の方、現在の活動全般の中に研究を組み込みこんだ方、ともに個性がありどちらも好感もてました。

それぞれ人柄がよく表れた動画となっていたと思います。

研究内容や自分自身のことを分かりやすく伝えようとしていたことが良くわかりました。

